

第 19 回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

<テーマ型 市制 110 周年記念に向けて>

対話録概要

と き	令和 7 年 11 月 10 日（月） 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 1 階学習室 A・B・C
出 席 者	参加者 16 人、市長ほか関係者 7 人 計 23 人
トークテーマ	① 皆さんが感じる「この 10 年」のまちの変化 ② 「次の 10 年」に向けて、どんなまちにしていきたいか

【市長のあいさつ】

自分自身が市長になって 19 回目の車座集会である。令和 8 年 10 月 8 日に尼崎市は市制 110 周年を迎えるため、どのようなイベントを開催するか、また、どういうまちにしていきたいかについて想いを共有し、市民の皆さまと粋にとらわれず意見交換を行い、今後の施策展開に繋げていきたいと思っている。平日夜の遅い時間での実施となるが、よろしく願いたい。

【意見交換】

テーマ① 皆さんが感じる「この 10 年」のまちの変化

<参加者>この 10 年間で尼崎市は確かに良くなっていると感じる。高齢者の中にはマイナスイメージを持っている人もいるが、若い人たちのマナーはとても良くなっている。昔の尼崎を知っている者として、この変化を見て嬉しく思う。

<参加者>尼崎市で訪問型支え合い活動補助事業の活動をしている。高齢者が増えており、一人暮らしの人も多い。高齢者の多くは家に閉じこもり、外に出ない傾向にあるため、何か生きがいを見つけ、「この地域に住んでいて良かった」と最期まで思ってもらいたい。

<市長>自分自身、高齢者福祉に対して課題意識を持っている。福祉の問題は全国的に共通して考える必要があり、介護保険制度では要介護の状態に応じたサービスの受け方や、単価・受給者の所得等に基づいてサービスが提供される仕組みがある。そのような中で、市の取組としては、要介護状態にならないように外出を促すための体操やフレイル予防などの活動を行っている。元気な高齢者も多くいるため、高齢者が活躍できる場を提供したいと考えており、働いて活躍できる場、生きがいを感じられる場として就労機会を提供することができないかと考えている。

<参加者>自分が過去に居た地域では、学校行事の中で小学生たちが農家のもとを訪れ、仕事を教えてもらい、実際に野菜等を育てる体験ができるものがあった。幼い頃から地域活動に参加することは、農業や工業などに興味を持つきっかけとなり、将来の選択肢が広がっていくと考える。そのため、保育所等や小学校の行事で、地域活動への参加の機会を設けたり、地域の高齢者から自分がしてきた仕事を紹介してもらおう場やプロから教わる機会を作ったりしてはどうか。

<参加者>音楽の例で言うと、音楽は指先を使うことで脳の活性化に繋がる。高齢者等が個人で習い事として通うとお金がかかり、楽器も自分で用意する必要があるため、市で所有する楽器を使って、生涯

学習プラザや市のホールにおいて、合奏等をする環境ができれば良いと考える。アンサンブルは2人以上が同時に演奏するため耳が鍛えられ、能力向上に影響を与えるとされており、子どもから大人までが集まり、同じ楽譜で一緒に演奏し教え合うことで、年齢の垣根を越えることができる。

〈市長〉総合文化センターがホール棟及び文化棟の耐震化工事のため、令和8年4月から令和13年1月まで休館の予定となっている。総合文化センターは文化芸術の発信拠点であり、ホールでの様々な催物や芸術家を招いた展示会の開催など市民をはじめ色々な人から親しまれてきた。しかし、工事期間中は、音楽を通じて様々な人々をつなげるような新しい取組を考える良い機会であると感じており、地域の交流や新しい活動を模索する時期であると捉えている。

〈参加者〉自身の地域活動の中でイベントを企画することもあるが、多様な主体と繋がりたいと思っても個人では限界があるため、活動主体が交流できる交流会を市に開催してほしい。ただ、参加人数が多すぎると結局話ができないことがあるため、小規模での交流でも十分繋がれると感じている。

〈市長〉尼崎市自治のまちづくり条例は、まちづくりに関わる主体が協力し、より良いまちをつくっていくために制定したもので、例えば、市民が気軽に集まれるプラットフォームを開催し、その中で新たなつながりづくり、地域発意の活動につなげ、市民のまちづくりへの当事者意識の醸成に取り組んでいる。地域課はこの条例をコンセプトにできた課で、地域の資源を把握し、地域の人々と顔の見える関係性を築き、介護など様々な地域課題を地域発意で解決できるような支援に取り組んでいる。

〈参加者〉自身が主催するイベントに地域課に共催していただくなどお世話になっており有難いと感じている。ただ、ある地域課では共催は初年度のみとして運用しており、別の地域課では継続的に共催対応してもらえるなど対応にばらつきがある。6地域課の運用を統一してほしい。

〈参加者〉現在、市民参加型のコミュニティーファームを運営している。多世代交流が重要であると感じており、子どもから高齢者まで参加できる場を提供し、農業を通じて五感を使う体験ができるような交流を広めている。地主から直接土地を借りて運営しており、高齢化により農家を辞める人が増えているが、市民参加型で野菜を作り、地域に提供している。

〈参加者〉コミュニティーファームはSNSでも話題になっており、自分自身、参加して生活が変わった。

〈参加者〉農地が守られるのか不安である。

〈市長〉行政が農地を直接守るには限界がある。生産緑地には税の優遇制度があるが、生産緑地制度で税金の減免は可能だが、農地を守るには守り手が必要である。相続の問題があるため、所有者の考えも重要となってくる。

〈参加者〉コミュニティーファームで収穫体験を開催し、食べ物を作る苦勞と喜びを実感してほしいと考えている。そして、イベントを企画する際、市報での情報発信を依頼しているが、ホームページやインスタグラムのQRコードの掲載を希望する。

〈参加者〉電気工事の企業に勤めているが、今回皆さんの意見を聞き、ものづくりのまち尼崎で活躍してきた高齢者が持つ技術を活かし、尼崎市を支えてきた人々にスポットを当てたイベントが開催されれば良いと感じた。企業はイベントの場所を提供し、市はものづくり企業を退職した人たちが技術を見せる機会を作り、若い人々に発信することで、高齢者の活力にもなるのではと感じた。

テーマ② 「次の10年」に向けて、どんなまちにしていきたいか

〈参加者〉市内にはあまやさい地産地消推進店が17店舗ある。子どもから大人まであまやさいを使った料理を楽しんでほしいが、推進が止まっているのではないかと。

〈参加者〉尼崎市で採れた野菜を使った料理を提供すれば推進店となるのか。推進店を増やしていくにあたって、まずは推進店の登録基準を明確にする必要があると考える。併せて、あまやさいの定義をしっかりと固めていくことが必要である。

〈市長〉この取組は始まったばかりのため、数を増やすにあたり、推進店としての基準について議論が必要と考えている。あまやさいに関しても、店舗側、供給側両方から問題を考える必要があるため、議論しながら進めていきたい。

〈参加者〉自分が勤める企業では、今後10年を見据え、農業や福祉の分野でDX化を推進しており、グループ会社にも先進的な技術を普及する企業があるため、その力を地域に発揮していくことが課題であると感じた。

【おわりに】

この車座集会の位置付けとして、参加者同士がアイデアを共有することが重要である。様々な意見を受け止め、政策に反映することが私の役割であると考えている。次の10年に向けて、どんなまちにしていきたいかという難しいテーマについて、皆さんの活動を通じて課題意識を聞ける場となった。今日の話をも政策推進のエネルギーとして、整理しながら政策に反映できるように努力していきたい。市としてできることには限界があるため、皆さんと協力しながらまちのにぎわいや活気、持続可能性を作っていきたいと考えている。

以 上